

2010年1月

「オリセツト®ネット」の生産能力を年間6,000万張りに拡大

住友化学は、これまで、タンザニア、ベトナム、中国において、マラリア予防用に防虫剤を練り込んだ蚊帳「オリセツト®ネット」の生産能力の拡大を進めてまいりましたが、このたび、ベトナムの製造委託先の能力を550万張り増強して、1,750万張りとするとともに、今後、各拠点における生産性を向上させることで、2010年半ばを目途に、「オリセツト®ネット」の全世界での生産能力を、6,000万張りに引き上げることといたしました。これにより、各拠点における生産能力は、タンザニア2,900万張り、ベトナム1,900万張り、中国1,200万張りとなる見込みです。

現在、世界で毎年2~3億人がマラリアを発症し、100万人以上が亡くなっています。マラリアは貧困の原因の一つであり、特に、マラリア発生の90%を占めるサハラ以南のアフリカにおいては、マラリア防圧は不可欠です。住友化学が開発した長期残効型の防虫蚊帳「オリセツト®ネット」は、耐久性に優れ、洗濯しても防虫効果が5年以上持続する点が特長です。マラリアを媒介する蚊から経済的かつ効果的に身を守ることができるため、世界保健機関（WHO）などから高く評価され、使用が推奨されています。

国連「ミレニアム開発目標」(*)に掲げられているマラリアの蔓延防止を達成するため、防虫蚊帳の配布は有効な手段の一つとされています。WHO発行の「World Malaria Report 2009」によると、防虫蚊帳を1張り以上使用する家庭の割合は、アフリカ全体で、2006年の17%から2008年の31%に改善が図られました。また、アフリカの13カ国の国々では、2008年までに、防虫蚊帳の普及が全世帯の50%以上に拡大しました。防虫蚊帳とマラリア治療薬の普及率が高い国々では、マラリアによる死亡数が数年で50%以上減少するケースも出てきています。しかし、比較的多くの人口を有するナイジェリア、コンゴ共和国、エチオピアでの防虫蚊帳の普及率は低く、マラリア防圧に向けて、さらなる活動の推進が望まれています。

住友化学は、今後も関係諸機関との連携も図りながら、マラリア予防の取り組みを積極的に支援してまいります。

以上

(*) 国連「ミレニアム開発目標」(Millennium Development Goals: MDGs) :

国際連合が2000年9月に採択した国連ミレニアム宣言に基づき、貧困、教育、環境、人権など8つのテーマについて、国際社会が2015年までに達成すべき目標とアクションプランを定めたもの。